西南学院大学
SEINAN GAKUIN UNIVERSITY

村上学長インタビュー

～学長の描かれた絵をバックに～

2004年3月24日午前10時～11時

インタビューアー

福栄奈津子 :英専 Bordeaux Business School

細見るい :英文 San Diego State U.

学生の自主性」と学校側の情報提供」が重要に

Q: 語学の西南」といわれていますが、実際語学ができる学生は多いのでしょうか。

A: 語学ができる」という程度や、それが日本国内なのか、世界においてなのかによって答え方は異なるでしょう。TOEFLのレベルに関しては、西日本でトップだという見解を持っています。日本30数校、韓国数校、中国数校の大学を対象に調査しましたが、その中でも西南はトップです。ですから、日本全国で見ても、西南の学生の英語力はかなり上の、数えられる順位に入ると思います。

Q:私 福栄)は以前に比べ、かなり学生のモチベーションは下がっていると思うのですが。

A:確かに、優秀な人はいるのですが、勉強するかはその人次第ですね。大学に入って遊んでしまう学生もいますし・・・学生全体の英語に対するモチベーションは低下してきています。おそらく、勉強する人、しない人との差が以前より大きくひらいている、というのが現状でしょう。実は、必修科目というのがかなり昔に比べ減ったのです。以前は必修で英語や外国語を履修せざるを得なかったから、学生全体のレベルが保たれた。しかし、今では無理にとる必要をなくし、自由に教科を選べるようにしたので、今度は学生が自主的に学習するか、という問題になっていると思います。

Q：それではその必修科目が減った分、大学はどのように学生を語学の面でサポートできると思いますか。

A：LLの自習時間やテープライブラリーはどうでしょうか。しかし、実際授業と重なっていることもあり、どれだけ活用されているかはわかりませんね。商学部の先生方は学生の語学力を強化したいと考えているようです。今の英語教育に不満のある生徒と同様に不満のある先生ももちろんいるので、英文学科では英語教育改革プログラムに取り組んでいるんですよ。

Q:語学と関係ない学部の生徒の中には 情報が足りない。ＬＬの活用や別科授業が聴講できることなど知らなかった。」という人もいます。

A:学校側としては、語学強化やサポート体制（LLなど）について入学時のオリエンテーションで述べるのですが、情報量が多すぎて伝わりきれてないと思います。解決策のひとつとして、ホームページを充実させ、そこから学生が情報を得られるようにできたらいいですね。

なんだ、日本語話せるんだ」と言われました 笑)。

Q:残念なことに、英語専攻でも授業のほとんどが日本語で行われています。学生の中には 英語ではわからない」という人が多いそうです。

A：そうだったんですか。私は九州大学にいたとき、すべて英語で授業を行っていたのですが、あるとき食堂で日本語で話していると、後ろに座っていた学生が なんだ、日本語話せるんだ。」と言っていたのが聞こえましてね 笑)。

留学生が学ぶことが財産

Q:実は私たち帰国留学生は西南クループロジェクトといって、開かれた留学フェアや留学体験談ホームページの作成を行ったりしています。（資料を手渡す）

A:そうですか。それは素晴らしいですね。

Q:帰国留学生にこういうことをしてほしい、またしなければならない、という考えはありますか？

A:私は、一人一人が留学で学んで帰ってくることが財産だと考えているので、「これをしなさい」というようなことは考えていません。最低限夏に海外からやってくる留学生のお世話が義務付けられていますが、それも「義務」というよりは「向こうでお世話になったから自分も世話をしよう」という自然な気持ちで皆動いているのではないでしょうか。（これに私たち二人強くうなずく）これは国際センターも留学生も助かっているはずです。

Q：それでは大学から何かを強制して帰国生にフィードバックしてほしい、というのはないのですね？

A:ええ、ありません。しかし国際センターが事務的に色々してほしいことはあると思いますよ。

Q：そうですね。派遣留学生は留学中、毎月センター宛てにメールを書いたり、帰国レポートを書いたり、そういう義務がありますし。結構いろいろあって、中々それ以上のことをセンターだけでやろうとするのは大変なようです。

A:それに提携校も増えましたしね。管理が大変でしょうね。ようやくＩ－ハウスという留学生用の寮も十年越しの計画で完成しました。ここには日本人の学生も入れますし・・・本科生として面白い国から来ている学生、例えばミャンマーとかがいるので、もっと日本人学生との交流を国際センターが取り持ってくれるといいかもしれません。例えばフィーチャーウィークなどもできますね。

ええ、「昔は」（笑）留学も珍しかったですよ。

Q:学長は留学を経験されていますよね。

A:私が西南学院大学にいたころは派遣留学制度はまだありませんでした。スコットランドのエディンバラ大学に留学しましたが、それは研究を主としたものでした。

Q:昔は留学というのは・・・失礼しました（笑）、「以前は」留学は珍しかったと思うのですが。

A：ええ、「大昔は」（笑）、ドルも360円の世界ですし、だからこそアメリカ留学に憧れる学生も多かったと思います。今みたいに飛行機ですぐに行けないわけですし、船で時間をかけて渡るのです。英語には不安はなかったですけどね。私は西南に中学から通っていて、宣教師に英語を習いました。

提携先の拡大、アジアと西南

Q：今西南はどんどん提携校が増えていますね。私（福栄）としては、やはりアジアのゲートである福岡にある西南が、アジアへ開かれていってほしいと思うのですが。

A:実は、アジアに提携校を持とうと提案したのは私なんですよ。ただ、アジアは財政面で難しいかもしれません。吉林とは奨学金などの関係でうまくいっており、韓国も大丈夫です。しかし、やはり日本で暮らすのはアジアの学生には大変なので、そこが難しいですね。それから、語学の問題です。交換留学制度なので、西南から学生を派遣するとなると、現地の言葉ができる学生が必要です。あるイタリアの大学が実は提携を求めていたのですが、西南には第二外国語のクラスでイタリア語がない。こういったことも問題ですね。

Q:例えば、マレーシアやシンガポールでは英語で授業を行う大学もあると思うのですが。

A:香港もそうですね。そういうのは可能でしょう。例えば、ボルドーと提携を結ぶときも、「フランス語が完ぺきに話せないと駄目なのか？」ということが問題に上がりました。向こうが「その必

要はない」と言ってくれましたが。ボルドービジネススクールには英語を話せる方が多くいるでしょう?

Q：ええ、比較的そうですね。

A:向こうの担当者の方が福岡に来られた時、はじめフランス語で会話していて・・・あとから私が英語を話すと知ってから、会話が英語とフランス語混合になりました。

高校で英語・ドイツ語を、大学でフランス語とギリシャ語を・・・次はアラビア語に挑戦したい。

Q：フランス語はいつ学んだのですか？

A:大学のときです。高校生のとき三年間ドイツ語を学んだので、大学で上級ドイツ語をとろうと思ったのですが、履修の関係で駄目で、フランス語にしました。私は東京で通訳として働いていたとき、アテネ・フランセーズに通っていて、仕事が終わるとすぐにレッスンへ行っていました。話すのはいいのですが、しょっちゅうフランス語に触れているわけではないので、聞くのは難しいですね。

Q:え、高校でドイツ語を学んだのですか？私（福栄）も同じ高校なのですが・・・ドイツ語もフランス語もなく、英語は受験のためのものしか学びませんでした。

A:そうですか。私は大学のときはバイブルクラスなどにも参加し、神学部の授業を聴講したりしていたので、ギリシャ語は読めるのですが・・・

Q：ギリシャ語ですか。

A:ええ、ですからオーストラリアの友人たちとギリシャに行った際には、友人たちのほうが色々なものを指して、これは何？と聞いてきました。そして面白かったのは、同じ英語なのに訛りがあるため、お互いに通じないのです。ひとりの友人に別の友人の言っていることを通訳してもらって（笑）。

Q：エディンバラではどうでしたか。私（細見）はリヴァプールに行ったとき、全く英語がわかりませんでした。

A:全然わかりませんでした。田舎では、現地の言葉が普通に話されており、英語がわからない、ということもあります。だんだん言葉を理解してくるのは一年たったころですね。ですから、留学を終え、また時間がたってから留学しなおすと語学力がついてくるのが自分でもわかります。留学は二度したほうがいい。

Q：英語にフランス語にドイツ語にギリシャ語に・・・語学が学長を魅了する理由は何ですか？

A:やはり様々な言語に接することは面白いですから・・・幅が広がりますしね。中国語もやりたいですし、韓国へ行ったときはもっと文字を読んでみたいと思いました。アラビア語にも挑戦したくて・・・コーランなど読みますので、やはりその国の言葉で読んだほうがいい、と。チャンスがあれば色々挑戦してみたいですね。

Q:学長は高校生のときにドイツ語に触れる機会があったのですが、やはり学校が色々な機会を学生に与えることも大事ですね。